



2020年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月14日

上場会社名 株式会社ライトオン 上場取引所 東
 コード番号 7445 URL http://biz.right-on.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤原 祐介
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 川崎 純平 TEL 029-858-0321
 四半期報告書提出予定日 2020年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年8月期第3四半期の連結業績（2019年9月1日～2020年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第3四半期	39,100	△31.5	△1,809	—	△1,757	—	△3,326	—
2019年8月期第3四半期	57,109	—	△483	—	△436	—	△2,334	—

(注) 包括利益 2020年8月期第3四半期 △3,350百万円 (—%) 2019年8月期第3四半期 △2,378百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第3四半期	△120.61	—
2019年8月期第3四半期	△84.67	—

(注) 当社は、2019年8月期に決算日を8月20日から8月末日に変更しているため、前第3四半期連結累計期間（2019年8月21日から2019年5月20日）と比較対象期間が異なりますが、対前年同四半期増減率については、参考数値として記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第3四半期	42,742	19,289	44.9
2019年8月期	46,606	22,640	48.4

(参考) 自己資本 2020年8月期第3四半期 19,196百万円 2019年8月期 22,547百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	10.00	—	0.00	10.00
2020年8月期	—	0.00	—		
2020年8月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2020年8月期の連結業績予想（2019年9月1日～2020年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,500	△27.7	△3,900	—	△4,000	—	△5,850	—	△212.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

(注) 当社は、2019年8月期に決算日を8月20日から8月末日に変更しているため、前第3四半期連結累計期間（2019年8月21日から2019年5月20日）と比較対象期間が異なりますが、対前期増減率については、参考数値として記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年8月期3Q	29,631,500株	2019年8月期	29,631,500株
② 期末自己株式数	2020年8月期3Q	2,051,470株	2019年8月期	2,051,246株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年8月期3Q	27,580,160株	2019年8月期3Q	27,568,077株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績の状況の概要は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において判断したものであります。

また、2019年8月期に決算日を8月20日から8月末日に変更しているため、前第3四半期連結累計期間（2018年8月21日から2019年5月20日）と比較対象期間は異なりますが、対前年同四半期比については、参考数値として記載しております。

当第3四半期連結累計期間（2019年9月1日～2020年5月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、急速な悪化が続き、極めて厳しい状況にありました。先行きに関しましては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げていく動きではありますが、当面、極めて厳しい状況が続くと見込まれており、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があるとされています。

このような状況の中、当社グループは、ジーンズをコアアイテムとしたアメリカンカジュアルファッションのセレクトショップとしてストアコンセプトを確立し、商品力の向上に努め、収益性の改善のための各施策の取り組みを進めてまいりました。

商品面におきましては、前期に引き続きナショナルブランドとのパートナーシップを強化し、ジーンズセレクトショップとしての品揃えを強固なものにするるとともに、プライベートブランドの「BACK NUMBER」を始め、アウトドアテイストの「CAMP 7」、トレンド感を強く打ち出した「RAG MACHINE」の企画・素材開発・品質管理の強化に努めてまいりました。

また、ECの強化対策として、前期は自社サイトのリニューアル、主要業務の内製化、EC向け物流倉庫と店舗向け物流倉庫との統合など、抜本的な枠組みの改革を進め、当期は商品への思いやこだわり・着こなし提案を充実させたコンテンツを拡充し、お客様にとってより見やすく買いやすい環境を整えてまいりました。

店舗展開におきましては、国内では7店舗の出店と14店舗の退店を実施したことにより、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は464店舗となりました。また連結子会社の台湾萊特昂股份有限公司は、1店舗を閉鎖し、グループ全体の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は465店舗となりました。

以上の施策を講じましたが、商品の品揃えとファッショントレンドとの乖離が大きく、また、消費税増税や暖冬の影響もあり、防寒アイテムの販売が低調に推移したことで、9月から12月にかけて売上不振が続きました。トレンド要素を盛り込み、買いやすい価格に見直しをした春物商品の動向は年明けから堅調でしたが、1月下旬以降、新型コロナウイルスの影響が徐々に大きくなり、集客は著しく減少しました。3月から5月の期間におきましては外出自粛の影響から、オンラインショップでの販売は好調であったものの、4月7日の緊急事態宣言の発令に伴い、全国の商業施設の臨時休業や営業時間の短縮、移動の自粛といった影響により、実店舗の客数はさらに大きく落ち込む結果となりました。5月14日以降、緊急事態宣言の解除により、全国の商業施設が順次営業を再開しましたが、依然として移動の自粛、インバウンド需要の減退の影響が大きく、当第3四半期連結累計期間の売上高は39,100百万円（前年同四半期比31.5%減）となりました。

部門別売上高といたしましては、ボトムス部門の売上高は12,577百万円（前年同四半期比32.8%減）、カットソー・ニット部門の売上高は13,245百万円（前年同四半期比24.4%減）、シャツ・アウター部門の売上高は7,153百万円（前年同四半期比33.3%減）となりました。

利益面につきましては、上半期において秋冬シーズンの売上高の大幅な減少と、販売不振商品の値引き販売が増加したことに加え、下半期の3月から5月の期間、春物商品の大幅な販売機会ロスが発生し、期間中最も売上構成比が高いゴールデンウィークにおいて全体の9割以上の店舗が臨時休業となったことにより、営業損失1,809百万円（前年同四半期は営業損失483百万円）、経常損失1,757百万円（前年同四半期は経常損失436百万円）となりました。最終損益につきましては、退店店舗及び退店予定店舗（当連結会計年度で業態廃止を決定しているノーティードッグ店舗を含む）について店舗閉鎖損失の計上、退店店舗及び収益性の厳しい店舗について減損損失、並びに新型コロナウイルス感染拡大に関連し、商業施設等の臨時休業期間中の固定賃借料、人件費などの経費等を、新型コロナウイルス感染症による損失として668百万円計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失3,326百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失2,334百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,863百万円減少し、42,742百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3,554百万円減少し、25,612百万円となりました。これは主に現金及び預金が5,731百万円減少し、商品が3,347百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて308百万円減少し、17,130百万円となりました。これは有形固定資産が508百万円、投資その他の資産が162百万円それぞれ減少し、無形固定資産が362百万円増加したことによるものであります。

負債

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて512百万円減少し、23,453百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2,242百万円増加し、18,127百万円となりました。これは主に短期借入金が5,000百万円増加し、電子記録債務が571百万円、支払手形及び買掛金が1,605百万円、1年内返済予定の長期借入金が170百万円、賞与引当金が278百万円、それぞれ減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて2,755百万円減少し、5,325百万円となりました。これは主に長期借入金が2,720百万円減少したことによるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,350百万円減少し、19,289百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少があったことによるものであり、総資産に占める自己資本比率は44.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、2020年4月14日に公表しました「2020年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において未定としておりましたが、当第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、本日2020年7月14日に「2020年8月期連結業績予想、配当予想並びに特別損失の計上に関するお知らせ」を公表いたしました。詳細はこちらをご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,542	7,811
受取手形及び売掛金	1,611	1,354
商品	12,069	15,417
その他	1,943	1,029
流動資産合計	29,167	25,612
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,372	4,095
その他(純額)	1,754	1,523
有形固定資産合計	6,127	5,618
無形固定資産		
ソフトウェア	441	515
その他	127	415
無形固定資産合計	569	931
投資その他の資産		
敷金及び保証金	9,777	9,649
その他	980	945
貸倒引当金	△15	△14
投資その他の資産合計	10,742	10,580
固定資産合計	17,439	17,130
資産合計	46,606	42,742
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,075	1,469
電子記録債務	6,069	5,498
短期借入金	—	5,000
1年内返済予定の長期借入金	3,290	3,120
未払法人税等	221	325
賞与引当金	494	215
ポイント引当金	141	157
店舗閉鎖損失引当金	—	166
資産除去債務	11	127
その他	2,581	2,047
流動負債合計	15,885	18,127
固定負債		
長期借入金	5,340	2,620
資産除去債務	2,555	2,532
その他	186	173
固定負債合計	8,081	5,325
負債合計	23,966	23,453

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,195	6,195
資本剰余金	6,376	6,376
利益剰余金	12,611	9,285
自己株式	△2,625	△2,625
株主資本合計	22,558	19,231
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△21	△27
繰延ヘッジ損益	△1	—
為替換算調整勘定	37	6
退職給付に係る調整累計額	△25	△14
その他の包括利益累計額合計	△10	△35
新株予約権	92	92
純資産合計	22,640	19,289
負債純資産合計	46,606	42,742

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)
売上高	57,109	39,100
売上原価	29,240	19,825
売上総利益	27,869	19,274
販売費及び一般管理費	28,352	21,084
営業損失(△)	△483	△1,809
営業外収益		
受取家賃	28	26
受取手数料	96	26
為替差益	—	46
その他	13	38
営業外収益合計	138	137
営業外費用		
支払利息	45	27
貸貸費用	26	25
その他	18	32
営業外費用合計	90	85
経常損失(△)	△436	△1,757
特別利益		
投資有価証券売却益	7	—
新株予約権戻入益	2	6
受取保険金	—	71
違約金収入	—	15
特別利益合計	9	92
特別損失		
固定資産売却損	12	—
固定資産除却損	102	56
店舗閉鎖損失	16	169
減損損失	1,624	609
新型コロナウイルス感染症による損失	—	668
特別損失合計	1,755	1,503
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,181	△3,169
法人税等	152	157
四半期純損失(△)	△2,334	△3,326
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,334	△3,326

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年5月31日)
四半期純損失(△)	△2,334	△3,326
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△49	△5
繰延ヘッジ損益	△0	1
為替換算調整勘定	13	△31
退職給付に係る調整額	△7	10
その他の包括利益合計	△43	△24
四半期包括利益	△2,378	△3,350
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,378	△3,350
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当社グループは報告セグメントが単一であることから、記載を省略しております。